

人のために働くことが大事



薬師寺まほろば塾で語り合う登壇者（福井市で）—横山就平撮影

薬師寺まほろば塾・福井塾

福井市の福井工業大・金井講堂で23日開かれた「薬師寺まほろば塾・福井塾」（法相宗大本山薬師寺・奈良市、読売新聞社主催）。同寺管主の村上太胤塾長（70）の法話や、映画「利休にたずねよ」で知られる映画監督の田中光敏さん（59）の講演などがあり、「日本人のまごころ」について話し合った。

村上塾長、映画監督・田中さん語る

各地の災害や紛争で命を落とした人々への追悼法要に続き、村上塾長は「まほろばの心」をテーマに話した。県内は3世代同居率が全国でも高いことに触れ、「祖父母が仏壇に手を合わせれば、孫もつられて手を合わせる。こういう形を通して、温かい心を育てていくのは大切」と強調。「金のためではなく、人のために喜んで働くことが大事。とらわれない心が、豊かさにつながる」と論じた。

永平寺町の主婦、松田弥生さん（70）は「自分の心の有り様をどう見極めるかの必要性を考えさせられた。今日聞いた話を、今後の生活のヒントにしていきたい」と感銘を受けた様子だった。

田中さんは明治時代に和歌山・串本沖で起きたオスマン帝国（現トルコ）軍艦の遭難事故を題材にメガホンを取った「海難1890」に関連して、異国の乗組員を命がけで救出した人々の子孫に取材した際のエピソードを紹介。「『目の前に困っている人々がいたか

ら、当たり前のことをしただけ』と聞いている人が多かった。死語に近いのかも知れないが、あえて『まごころ』という言葉を4回も脚本の中に入れ込んだ」と明かした。

福井市の介護福祉士、門嶋啓修さん（31）は「塾長が説く人のために働くことの大切さと、困っている人がいたら助けるといふ映画の話がつながって、すごく納得できた」と感激していた。

その後、同寺の大谷徹^{チカ}副執事長を司会に迎えて、2人は対談。田中さんは「人を思い、大切にすることが増えるような映画を作っていきたい」と話し、村上塾長は「一つの信念をもって道を歩むのは素晴らしいこと。薬師寺も仏法の種をまき、仏教やお寺との出会いの場でありたい」と力を込めた。

あわら市の主婦、坂野靖子さん（58）は「普段は忘れていた、大切なことを思い起こさせてくれる機会となった。一つ一つ、自分のできることから実践したい」と話した。